

令和3年度  
年間授業計画  
～シラバス (Syllabus)～



新潟県立十日町高等学校  
松之山分校

# 目 次

シラバスについて（教務部）

教育課程

|      |  |
|------|--|
| 国 語  | 国語表現（3年選択）<br>国語総合<br>現代文B（2年）<br>教養国語（2年選択）<br>現代文B（3年）<br>古典B（2年）<br>古典B（3年）<br>探究国語（3年選択）                                     |
| 地理歴史 | 世界史B（2年）<br>世界史総合（3年選択）<br>日本史B  |
| 公 民  | 倫 理<br>政治・経済（1年）<br>政治・経済総合（3年選択）  |
| 数 学  | 数 学 I<br>数 学 II<br>探求数学（3年選択）<br>数 学 A<br>数 学 B（2年選択）<br>教養数学（3年選択）  |
| 理 科  | 物理基礎<br>物 理（2年選択）<br>物 理（3年選択）<br>化学基礎<br>化 学（3年選択）<br>生物基礎<br>生 物（2年選択）<br>生 物（3年選択）<br>探求理科（3年選択）                              |
| 保健体育 | 体 育（1年）<br>体 育（2年）<br>体 育（3年）<br>生涯スポーツ（3年選択）<br>保 健（1年）<br>保 健（2年）  |
| 芸 術  | 美 術 I<br>書 道 I   |
| 外国語  | コミュニケーション英語 I<br>英語表現 I<br>コミュニケーション英語 II（2年）<br>コミュニケーション英語 II（3年）<br>教養英語（3年選択）<br>英語表現 II（3年選択）<br>探究英語A（2年選択）<br>探求英語B（3年選択） |
| 家 庭  | 家庭基礎<br>服飾文化（3年選択）<br>フードデザイン（2年選択）  |
| 情 報  | 社会と情報  |

## 年間授業計画(シラバス)の活用について

新潟県立十日町高等学校  
松之山分校 教務部

### 1 シラバスの役割

「シラバス」= syllabus、英和辞典には「授業・講義などの概要、授業〔講義〕予定表」「アメリカの大学では最初の授業で各科目の担当者によって配られることが多く、何月何日にはどのような内容を授業で扱うか、試験や発表はいつかなどが細かく書かれているので、学生はこれに従って予習や準備をする。」とあります。現在では日本でもほとんどの大学で、また高等学校でも多くの学校が「シラバス」を作成し授業をより有効に行えるよう工夫が進められてきています。

この「シラバス」には、松之山分校で、具体的にどのような学習を行っていくのかが示されています。いふなれば、内容のついた学習カレンダーです。生徒はもちろんのこと、保護者の皆様にも、今、松之山分校で生徒諸君がどのような授業を受けているか、次にどのような段階や内容に進んでいくのか、ご理解頂けるようになっていきます。

教育活動にはなによりも「見通し」が大切です。学習は系統的・計画的に行われて初めて成果が上がるものです高等学校で「学ぶ」ためには筋道を立てて勉強する態度が必要です。「筋道を立てる」とは、何が目的でこのような勉強をしているのか、どこに自分の抱えている問題点があるか、を常に考えるということです。

各教科・科目の「年間授業計画」をもとに、各自で自分の学習計画を作りましょう。希望進路を実現するためには、学習の積み重ねが必要です。家庭学習を充実し、自主的・自発的な学習態度を養ってほしいところです。どうか、しっかりと勉強習慣を身につけて、夢の実現にむけて力強く歩みだしてください。

### 2 学習のヒント

#### ① 「わかる」ということ

どんなに勉強が嫌いな人でも、わからなかったことがわかったり、解けなかった問題が解けた喜びは大きいものです。その嬉しさから勉強をしたら人も多いです。「おれは勉強は嫌いだ」といっている人も「わからなくてもいい」と思っている人はいません。先生方も何とかわからせようと、工夫し努力しているのです。「わかった!!!」という喜びを実感できるよう、頑張ってください。

#### ② 暗記と理解

どんな勉強も初めは教えられたことをすべて覚えることからスタートします。そのうちに知識がたまり、それを基に推理し、より高度な問題も理解する力がついてきます。高校生になっても、文句なしに覚えなければならないことはあります。それは必ず覚えて下さい。その時、紙に書いたり、口に出したり、頭の中で絵を描くようにイメージしながら覚えると効果的だといわれています。

## ③ 授業を大切にしよう。

学校生活の中ではほとんどが授業時間です。(1年間で約1000時間)  
その授業を有効に活用できるかどうかで大きな差がでます。言い換えれば、一番簡単で有効な勉強方法は「授業を大切にすること」です。当たり前ですが授業を大切にしていればテスト前であわてることもないしクラブも身を入れてやれます。

## ④ 集中しよう、そして積極的に参加しよう

授業時間を有効に活用することが一番簡単で有効な方法ですが、ただ座って聞いて書くだけでは不十分です。集中して聞けたらどんなに効果が上がることでしょう。そのために机上には勉強道具以外は置かないということも大事です。又、先生に質問されたとき「わかりません」という人がいますが、せっかくのチャンスです。間違ってもいいから答えましょう。授業中は大いに間違ってもよいのです。大切なことはどこが間違いで、どうすれば正しいかを理解することです。

## ⑤ 先生を大いに活用しよう

先生方は職業柄からか「教えよう」「教えたい」という気持ちが強い人ばかりです。生徒が「教えて下さい」と行けば、嬉しくなってしまう人ばかりです。ただテスト前になって「どこがわからないのか？」と聞かれて「全部です」とか「出るところだけ教えて下さい」では怒られます。「このプリントの・・・です」とか「～の問題について」とか、具体的に持ってきて下さい。

## ⑥ 教えることは学ぶこと・・・友達との勉強

お互いに教え合う中で、意外な考え方・解き方があるのがわかります。また、相手を理解させるには相手によって教え方を変えたり、いろいろ工夫しなければなりません。いい意味のライバルや仲間がいるから続けられると思います。

## ⑦ 生活のリズムを作ろう。

生活の仕方と成績は関係ないと思っている人が多いのではないのでしょうか。けど、これが大いに関係するのです。生活のリズム・・・起床や就寝の時間、3度の食事、排泄の習慣など・・・これは社会人になっても必要です。もちろんリズムにのっていることは健康であると同時に、自分の体をコントロールできているということです。夜更かししてぎりぎりまで寝ていて、朝食も食わずに授業を受ける・・・これでは午前中の授業効果は期待できません。勉強も生活のリズムに組み込んで習慣化すると、ぐっと楽にスムーズにやれます。

## ⑧ 予習と復習

小中学校時代の家庭での勉強は、宿題も含めて、復習中心でした。今日習ったことを忘れないうちに正確にしっかりと脳に覚えこませるためでした。高校に入って復習も大事ですが、それにもまして予習が大切です。5分でもいいですから明日やるところに目を通して下さい。授業に対する姿勢が違ってきます。先生の言われる意味がわかってきます。

### ⑨ 休日の利用

完全学校五日制となり、祝日や長期休業を入れると相当の日数になります。この時期は時間に余裕がある反面、制限が少ないのでどうしても生活のリズムが崩れがちで、何もしないうちに休みが終わってしまうことが多いです。休日は部活動や友人との語り、家の手伝いなど勉強以外大切なものもあります。しかし、学校へ行っているときに比べて自由になる時間ははるかに多いのですから上手に計画を立てて、積極的に活用して下さい。

### ⑩ 本を読もう

自分が興味・関心を持ったことをより深く知るためには、読書は欠かせません。何を呼んだらいいのかわからない人、ジャンルにとらわれずに、興味がわいた本を手にとってみて下さい。何冊も読んでいく中で、人生の指針となるべき一冊の本が見つかることでしょう。また、「読む力」をつけるためにも、時間をみつけて読書の習慣をつけましょう。その際には図書館を多いに活用して下さい。

## 3 シラバス利用上の注意点

授業計画には学期毎にどの単元をどのような着眼点をもって学習するかが記されています。次はどの単元を学習するかも分かりますので、予習に生かしてください。副教材・参考書のが上げられていますから、自分で学習する場合の参考にしてください。各講座の評価の視点、考査(小テスト)、課題についてはよく読んでください。とても大切なことです。

なお、シラバスは年度初めの計画ですので、授業計画や時間数は進度や選択者の進路希望等により変更になる場合があります。変更の場合は授業等で連絡しますが、承知しておいてください。

## 教育課程(平成30年度入学生～)

| 教科        | 科目           | 標準<br>単位数 | 1年 |   |   | 2年 |   |   | 3年 |   |   |   | 計   |   |   |
|-----------|--------------|-----------|----|---|---|----|---|---|----|---|---|---|-----|---|---|
|           |              |           | 共通 | A |   | 共通 | B | C | 共通 | D | E | F |     | G |   |
| 国<br>語    | 国語総合         | 4         | 4  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 4   |   |   |
|           | 国語表現         | 3         |    |   |   |    |   |   | 3  |   |   |   | 0～3 |   |   |
|           | 現代文B         | 4         |    |   | 2 |    |   | 3 |    |   |   |   | 5   |   |   |
|           | 古典B          | 4         |    |   | 3 |    |   | 2 |    |   |   |   | 5   |   |   |
|           | 探究国語         |           |    |   |   |    |   |   |    |   |   | 3 | 0～3 |   |   |
|           | 教養国語         |           |    |   |   |    | 2 |   |    |   |   |   | 0～2 |   |   |
| 地理<br>歴史  | 世界史B         | 4         |    |   | 4 |    |   |   |    |   |   |   | 4   |   |   |
|           | 日本史B         | 4         |    |   |   |    |   | 4 |    |   |   |   | 4   |   |   |
|           | 世界史総合        |           |    |   |   |    |   |   |    | 2 |   |   | 0～2 |   |   |
| 公<br>民    | 倫理           | 2         | 2  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 政治・経済        | 2         | 2  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 政治・経済総合      |           |    |   |   |    |   |   |    | 2 |   |   | 0～2 |   |   |
| 数<br>学    | 数学Ⅰ          | 3         | 3  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 3   |   |   |
|           | 数学Ⅱ          | 4         |    |   | 4 |    |   |   |    |   |   |   | 4   |   |   |
|           | 数学A          | 2         | 2  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 数学B          | 2         |    |   |   |    | 3 |   |    |   |   |   | 0～3 |   |   |
|           | 探究数学         |           |    |   |   |    |   |   |    | 6 |   |   | 0～6 |   |   |
|           | 教養数学         |           |    |   |   |    |   |   |    | 3 |   |   | 0～3 |   |   |
| 理<br>科    | 物理基礎         | 2         | 2  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 物理           | 4         |    |   |   |    | 2 |   | 3  |   |   |   | 0～5 |   |   |
|           | 化学基礎         | 2         |    |   | 3 |    |   |   |    |   |   |   | 3   |   |   |
|           | 化学           | 4         |    |   |   |    |   |   |    |   | 4 |   | 0～4 |   |   |
|           | 生物基礎         | 2         | 2  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 生物           | 4         |    |   |   |    | 2 |   | 3  |   |   |   | 0～5 |   |   |
|           | 探究理科         |           |    |   |   |    |   |   |    |   |   | 3 | 0～3 |   |   |
| 保健<br>体育  | 体育           | 7～8       | 3  |   | 3 |    |   | 3 |    |   |   |   | 9   |   |   |
|           | 保健           | 2         | 1  |   | 1 |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 生涯スポーツ       |           |    |   |   |    |   |   |    |   |   | 3 | 0～3 |   |   |
| 芸術        | 美術Ⅰ          | 2         |    | 2 |   |    |   |   |    |   |   |   | 0～2 |   |   |
|           | 書道Ⅰ          | 2         |    | 2 |   |    |   |   |    |   |   |   | 0～2 |   |   |
| 英<br>語    | コミュニケーション英語Ⅰ | 3         | 3  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 3   |   |   |
|           | コミュニケーション英語Ⅱ | 4         |    |   | 3 |    |   | 2 |    |   |   |   | 5   |   |   |
|           | 英語表現Ⅰ        | 2         | 2  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 英語表現Ⅱ        | 4         |    |   |   |    |   |   |    | 4 |   |   | 0～4 |   |   |
|           | 探究英語A        |           |    |   |   |    | 3 |   |    |   |   |   | 0～3 |   |   |
|           | 探究英語B        |           |    |   |   |    |   |   |    | 2 |   |   | 0～2 |   |   |
|           | 教養英語         |           |    |   |   |    |   |   |    | 3 |   |   | 0～3 |   |   |
| 情報        | 社会と情報        | 2         |    |   | 2 |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
| 家<br>庭    | 家庭基礎         | 2         | 2  |   |   |    |   |   |    |   |   |   | 2   |   |   |
|           | 服飾文化         | 2～4       |    |   |   |    |   |   |    |   | 4 |   | 0～4 |   |   |
|           | フードデザイン      | 2～4       |    |   |   |    | 3 |   |    |   |   |   | 0～3 |   |   |
|           |              |           |    | 2 | 8 | 2  | 2 | 5 | 3  | 2 | 1 | 4 | 3   | 6 | 4 |
| 教科時数合計    |              |           | 3  | 0 | 3 | 0  | 3 | 0 | 3  | 0 | 9 | 0 |     |   |   |
| 総合的な学習の時間 |              |           | 1  | 1 | 1 | 3  |   |   |    |   |   |   |     |   |   |
| ホームルーム活動  |              |           | 1  | 1 | 1 | 3  |   |   |    |   |   |   |     |   |   |
| 合計        |              |           | 3  | 2 | 3 | 2  | 3 | 2 | 9  | 6 |   |   |     |   |   |

教科：国語 科目：国語総合

|   |                          |              |               |
|---|--------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1 学年                              | 履修単位（時間）<br>4 単位（140 時間） | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：精選国語総合【新訂版】（大修館書店）                  |                          |              |               |
| 副教材等：常用国語便覧（浜島書店）、常用漢字クリア（尚文出版）、国語辞典、古語辞典 |                          |              |               |

## 1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度  | 話す・聞く能力   | 書く能力                                       | 読む能力   | 知識・理解                                       |
|---|---|--|--|---|
| 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 | 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 | 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 | 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 |

## 3 学習計画

| 学期         | 単元         | 時数 | 学習内容  | 評価の観点 |   |   |   |   |
|------------|------------|----|---|-------|---|---|---|---|
|            |            |    |   | 関     | 話 | 書 | 読 | 知 |
| 1 学期<br>中間 | 現代文編 随想    | 5  | 「挑戦」茂木健一郎                                   | ◆     |   | ◆ |   | ◆ |
|            | 評論一        | 5  | 「水の東西」山崎正和                                  | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 古文編 古文入門   | 10 | 古典の魅力、説話「児のそら寝」<br>・歴史的仮名遣い<br>・品詞の分類、用言の活用 | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
| 1 学期       | 現代文編 小説一   | 14 | 「羅生門」芥川龍之介                                  | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 漢文編 漢文入門   | 10 | 漢文とは 1～5                                    | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 古文編 物語     | 4  | 「借虎威」「漁夫之利」<br>「伊勢物語」、係り結び                  | ◆     |   | ◆ |   | ◆ |
| 2 学期<br>中間 | 現代文編 詩     | 8  | 「自分の感受性くらい」他                                | ◆     | ◆ |   |   | ◆ |
|            | 小説二        | 8  | 「城の崎にて」志賀直哉                                 | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 古文編 日記     | 6  | 『土佐日記』助動詞と助詞                                | ◆     |   | ◆ |   | ◆ |
| 2 学期       | 漢文編 唐代の詩   | 10 | 「春望」他                                       | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 現代文編 評論二   | 10 | 「動的平衡としての生物多様性」福岡伸一                         | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 古文編 随筆     | 4  | 『徒然草』助詞                                     | ◆     | ◆ |   |   | ◆ |
| 3 学期       | 漢文編 軍記     | 4  | 『平家物語』敬語                                    | ◆     | ◆ |   |   | ◆ |
|            | 漢文編 古代の史話  | 6  | 「鶏鳴狗盗」他                                     | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 現代文編 短歌・俳句 | 7  | 「その子二十」短歌十六首…与謝野晶子他                         | ◆     | ◆ |   |   | ◆ |
| 3 学期       | 古文編 和歌     | 7  | 「いくたびも」俳句十六句…正岡子規他                          | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 漢文編 孔子の思想  | 11 | 万葉集・古今和歌集・新古今和歌集                            | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |
|            | 漢文編 論語     | 11 | 論語  | ◆     |   |   | ◆ | ◆ |

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力  
読：読む能力 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 話す・聞く能力   | 書く能力                                       | 読む能力  | 知識・理解  |
|---|---|--|---|--|
| 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したりするとともに、伝え合おうとする。  | 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。 | 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道をたてて適切に文章に書く。 | 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。 | 表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。 |
| <p>【評価方法】</p> <p>「定期考査」を中心に、授業時間中に行う漢字の「小テスト」、課題の提出、ノート提出、その他授業態度等を勘案し、総合的に評価します。漢字小テスト4回分を各定期考査の範囲に含めて出題します。</p> |   |  |   |  |

## 5 履修上の注意

週の最初の国語総合の時間に、常用漢字クリアより範囲を定め、漢字の小テストを行います。必ず全ての小テストに合格できるよう、毎日積み重ね学習しましょう。



教科：地理歴史                      科目：世界史B

|                         |                        |              |               |
|-------------------------|------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>2学年             | 履修単位(時間)<br>4単位(140時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：詳説世界史改訂版(山川出版社)   |                        |              |               |
| 副教材等：ニュースページ世界史詳覧(浜島書店) |                        |              |               |

### 1 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 資料活用の技能   | 知識・理解   |
|--|--|---|---|
| 世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。 | 世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 | 世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。 |

### 3 学習計画

| 学期        | 単元                     | 時数 | 学習内容  | 評価の観点 |   |   |   |
|-----------|------------------------|----|---|-------|---|---|---|
|           |                        |    |   | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 1学期<br>中間 | 序章 先史の世界               | 1  | 人類の進化・文化から文明へ   | ◆     |   |   |   |
|           | 第1章 オリエントと地中海世界        | 10 | 古代オリエント世界・ギリシア世界・ローマ世界                                    | ◆     |   |   | ◆ |
|           | 第2章 アジア・アメリカの古代文明      | 9  | インドの古典文明・東南アジアの諸文明・中国の古典文明・南北アメリカ文明                       | ◆     |   |   | ◆ |
| 1学期<br>期末 | 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成  | 12 | 草原の遊牧民とオアシスの定住民・北方民族の活動と中国の分裂・東アジア文化圏の形成                  | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第4章 イスラーム世界の形成と発展      | 7  | イスラーム世界の形成・イスラーム世界の発展・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化<br>イスラーム文明の発展 | ◆     |   | ◆ | ◆ |
|           | 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展      | 9  | 西欧世界の成立・東欧世界の成立・西欧中世世界の変容・西欧の中世文化                         | ◆     | ◆ |   | ◆ |
| 2学期<br>中間 | 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開  | 4  | トルコ化とイスラーム化の進展・東アジア諸地域の自立化・モンゴルの大帝国                       | ◆     |   | ◆ |   |
|           | 第7章 アジア諸地域の繁栄          | 7  | 東アジア世界の動向・清代の中国と隣接諸地域・トルコ・イラン世界、ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展       | ◆     |   | ◆ | ◆ |
|           | 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成       | 7  | ヨーロッパ世界の拡大・ルネサンス・宗教改革・ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成                | ◆     |   | ◆ | ◆ |
|           | 第9章 近世ヨーロッパ世界の展開       | 7  | 重商主義と啓蒙専制主義・欧州諸国の海外進出・17～18世紀のヨーロッパ文化と社会                  | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の形成 | 7  | 産業革命・アメリカ独立革命・フランス革命とナポレオン                                | ◆     | ◆ |   | ◆ |
| 2学期<br>期末 | 第11章 欧米における近代国民国家の発展   | 8  | ウィーン体制の成立・ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生・南北アメリカの発展・19世紀欧米の文化           | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第12章 アジア諸地域の動揺         | 8  | オスマン帝国支配の動揺と西アジア諸地域の変容・南アジア・東南アジアの植民地化、東アジアの激動            | ◆     |   | ◆ | ◆ |
|           | 第13章 帝国主義とアジアの民族運動     | 8  | 帝国主義と列強の展開・世界分割と列強対立・アジア諸国の改革と民族運動                        | ◆     | ◆ |   | ◆ |

| 学期  | 単元              | 時数 | 学習内容  | 評価の観点 |   |   |   |
|-----|-----------------|----|---|-------|---|---|---|
|     |                 |    |   | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 3学期 | 第14章 二つの世界大戦    | 18 | 第一次世界大戦とロシア革命・ヴェルサイユ体制下の欧米、アジア・アフリカの民族運動・世界恐慌とファシズム諸国の侵略・第二次世界大戦    | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|     | 第15章 冷戦と第三世界の自立 | 9  | 戦後世界秩序の形成・アジアの独立・冷戦の激化・西欧・日本の経済復興・世界の多極化・第三世界の台頭と米ソの接近・石油危機と世界経済の再編 | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|     | 第16章 現代の世界      | 9  | 社会主義世界の変容とグローバル化・途上国の民主化・地域紛争の激化・現代文明の特徴                            | ◆     | ◆ |   | ◆ |

計140時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 資料活用の技能   | 知識・理解   |
|--|--|---|---|
| 世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。    | 世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。 |
| <b>【評価方法】</b><br>授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。 |  |   |   |

## 5 履修上の注意

国際化の時代といわれます、世界の歴史をしっかりと理解して下さい。覚えなければならないことがたくさんありますが、整理しながら着実に取り組み、知識の定着を図りましょう。

教科：地理歴史 科目：日本史B

|                              |                        |              |               |
|------------------------------|------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>3学年                  | 履修単位(時間)<br>4単位(140時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：詳説日本史改訂版(山川出版社)        |                        |              |               |
| 副教材等：写真資料館 日本史のアーカイブ(東京法令出版) |                        |              |               |

## 1 学習目標

我が国の歴史の展開を、諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 資料活用の技能  | 知識・理解  |
|--|---|--|--|
| 我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 | 我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。 | 我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。 | 我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。 |

## 3 学習計画

| 学期        | 単元                  | 時数 | 学習内容  | 評価の観点 |   |   |   |
|-----------|---------------------|----|---|-------|---|---|---|
|           |                     |    |   | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 1学期<br>中間 | 第1章<br>日本文化のあけぼの    | 6  | 文化の始まり・農耕社会の成立・古墳とヤマト政権                                   | ◆     |   |   | ◆ |
|           | 第2章<br>律令国家の形成      | 8  | 飛鳥の朝廷・律令国家の成立・平城京の時代・天平文化・平安朝廷の形成                         | ◆     |   |   | ◆ |
|           | 第3章<br>貴族政治と国風文化    | 6  | 摂関政治・国風文化・荘園と武士   | ◆     | ◆ |   | ◆ |
| 1学期       | 第4章<br>中世社会の成立      | 16 | 院政と平氏の台頭・鎌倉幕府の成立・武士の社会・蒙古襲来と幕府の衰退・鎌倉文化                    | ◆     |   |   | ◆ |
|           | 第5章<br>武家社会の成長      | 12 | 室町幕府の成立・幕府の衰退と庶民の台頭                                       | ◆     |   |   | ◆ |
| 2学期       | 第5章<br>武家社会の成長      | 6  | 室町文化・戦国大名の登場  | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第6章<br>幕藩体制の確立      | 13 | 織豊政権・桃山文化・幕藩体制の確立   | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第7章<br>幕藩体制の展開      | 13 | 幕政の安定・経済の発展・元禄文化  | ◆     |   | ◆ | ◆ |
| 2学期       | 第8章<br>幕藩体制の動揺      | 10 | 幕政の改革・幕府の衰退・化政文化  | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第9章<br>近代国家の成立      | 14 | 開国と幕府の動乱・明治維新と富国強兵・立憲国家の成立と日清戦争・日露戦争と国際関係・近代産業の発展・近代文化の発達 | ◆     |   | ◆ | ◆ |
| 3学期       | 第10章<br>二つの世界大戦とアジア | 18 | 第一次世界大戦と日本・ワシントン体制・市民文化・恐慌の時代・軍部の台頭・第二次世界大戦               | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第11章<br>占領下の日本      | 10 | 占領と改革・冷戦の開始と講和  | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第12章<br>高度成長の時代     | 4  | 55年体制・経済復興から高度成長へ   | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第13章<br>激動する世界と日本   | 4  | 経済大国への道・冷戦終結と日本社会の動揺                                      | ◆     | ◆ |   | ◆ |

計140時間(50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：技能・表現 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現   | 資料活用の技能   | 知識・理解   |
|---|--|---|---|
| 日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、日本人としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。                      | 日本の歴史の展開を、歴史的視野だけでなく地理的・世界史的視野に立って考察・解釈し、適切に表現出来る。 | 諸資料を収集し、有用な情報を選択・活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けることができる。 | 日本の歴史の展開についての基礎・基本を確実に習得し、世界史的視野・地理的視野に立って総合的に理解し、習得することが出来る。 |
| <p><b>【評価方法】</b><br/>           授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。</p> |  |   |   |

## 5 履修上の注意

日本の歴史を考える基本的な方法を身に付ける意識を持つことが大切です。知識があっても初めて考えることが出来るのでありますから、単なる暗記科目としてではなく、自ら考えることを大切にして学習して下さい。

## 教科：公民 科目：倫理

|                     |           |      |       |
|---------------------|-----------|------|-------|
| 履修学年                | 履修単位(時間)  | 履修形態 | 履修条件等 |
| 1学年                 | 2単位(70時間) | 必修科目 | 特になし  |
| 使用教科書：高校倫理新訂版(実教出版) |           |      |       |
| 副教材等：最新倫理資料集(第一学習社) |           |      |       |

## 1 学習目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 資料活用の技能   | 知識・理解  |
|--|--|---|--|
| 人間尊重の精神と生命に関する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者とともに生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸問題を探求する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。 | 他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 | 青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。 | 青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己の確立の課題とつなげて理解し、人間形成に生かす知識として身に付けている。 |

## 3 学習計画

| 学期        | 単元              | 時数 | 学習内容   | 評価の観点 |   |   |   |
|-----------|-----------------|----|--|-------|---|---|---|
|           |                 |    |  | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 1学期<br>中間 | 第1章             | 4  | 人間とは何か・青年期とは何か・自立への課題・自己形成の課題                            | ◆     | ◆ | ◆ |   |
|           | 第2章 青年期の課題と自己形成 |    |  |       |   |   |   |
|           | 第3章 人間としての自覚    | 6  | ギリシア思想・キリスト教   |       | ◆ | ◆ | ◆ |
| 1学期       | 第4章 人間としての自覚    | 7  | イスラーム・仏教・中国思想・芸術と人生                                      | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第5章 日本人としての自覚   | 7  | 古代日本人の思想・日本の仏教思想・近世日本の思想                                 | ◆     | ◆ |   |   |
| 2学期       | 第5章 日本人としての自覚   | 6  | 西洋思想の受容と展開   | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第1章 現代に生きる人間の倫理 | 10 | 人間の尊厳・科学技術と人間  | ◆     | ◆ |   |   |
| 2学期<br>期末 | 第1章 現代に生きる人間の倫理 | 12 | 民主社会と自由の実現・社会と個人   | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           |                 |    |  |       | ◆ |   | ◆ |
| 3学期       | 第1章 現代に生きる人間の倫理 | 2  | 人間への新たな問い・社会参加と幸福  | ◆     | ◆ |   |   |
|           | 第2章 現代の諸課題と倫理   | 16 | 生命の倫理・環境の倫理・家族・地域社会の課題・高度情報化社会の課題・文化と宗教の課題・国際平和と人類の福祉の課題 | ◆     | ◆ | ◆ |   |

計70時間(50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 資料活用の技能  | 知識・理解  |
|---|---|--|--|
| <p>人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。</p> | <p>他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。</p> | <p>青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。</p> | <p>青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。</p> |
| <p><b>【評価方法】</b><br/>授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。</p>  |   |  |  |

## 5 履修上の注意

倫理では、自分自身の生き方について考えます。過去の思想家の思想、現代社会の課題などを学ぶことによってそのきっかけを得ることができます。難しいと思わず丁寧に教科書を読むことが大切です。覚えなければいけないことはたくさんありますが、必要なことはしっかり覚えて下さい。

教科：公民 科目：政治・経済

|                           |           |      |       |
|---------------------------|-----------|------|-------|
| 履修学年                      | 履修単位(時間)  | 履修形態 | 履修条件等 |
| 1学年                       | 2単位(70時間) | 必修科目 | 特になし  |
| 使用教科書：政治・経済(東京書籍)         |           |      |       |
| 副教材等：新版 最新政治・経済資料集(第一学習社) |           |      |       |

### 1 学習目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 資料活用の技能   | 知識・理解   |
|--|--|---|---|
| 現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。 | 現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 | 現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 | 現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。 |

### 3 学習計画

| 学期        | 単元                                  | 時数      | 学習内容   | 評価の観点 |   |   |   |
|-----------|-------------------------------------|---------|--|-------|---|---|---|
|           |                                     |         |  | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 1学期<br>中間 | 第1編 現代の政治<br>第1章<br>民主政治の基本原理と日本国憲法 | 10      | 政治と法の機能・人権保障と法の支配・議会制民主主義と世界の政治体制・日本国憲法の基本原理・平和主義と自衛隊                        | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 第1章<br>民主政治の基本原理と日本国憲法              | 4<br>10 | 基本的人権の保障と新しい人権<br>国会の組織と立法・内閣の機構と行政・裁判所の機能と司法制度・地方自治制度と住民の権利・政党政治と選挙制度、世論の役割 | ◆     | ◆ |   | ◆ |
| 2学期<br>中間 | 第2章<br>現代の国際政治と日本                   | 8       | 国際社会と国際法・国際連合の組織と役割・国際政治の動向・国際紛争と難民問題、国際平和と日本の役割                             | ◆     | ◆ |   |   |
|           | 第2編 現代の経済<br>第1章<br>現代経済のしくみと特質     | 8       | 経済社会の発展・経済主体と経済活動・市場経済の機能と限界・経済成長と景気変動                                       |       |   |   | ◆ |
| 2学期<br>期末 | 第1章<br>現代経済のしくみと特質                  | 12      | 財政のしくみと働き・金融のしくみと働き・日本経済の歩み・中小企業の地位と役割・農業の現状と課題・高度情報社会の進展と課題・労働問題            |       |   | ◆ | ◆ |
| 3学期       | 第1章<br>現代経済のしくみと特質                  | 3       | 社会保障制度の充実・環境保全と資源エネルギー問題   | ◆     |   | ◆ | ◆ |
|           | 第2章<br>国民経済と国際経済                    | 6       | 国際経済のしくみ・国際協調と国際経済機関の役割・国際経済の諸問題と日本の役割                                       | ◆     |   |   | ◆ |
|           | 第3編<br>現代社会の諸問題                     | 4       | 現代日本の政治や経済の諸課題   | ◆     | ◆ | ◆ |   |
|           |                                     | 5       | 国際社会の政治や経済の諸課題   | ◆     | ◆ | ◆ |   |

計70時間(50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断  | 技能・表現   | 知識・理解   |
|---|--|---|---|
| 現代の政治，経済，国際関係に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，客観的に考えようとする態度をもち，国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進に向けて主体的に参加，協力しようとしているか。 | 現代の政治，経済，国際関係にかかわる事柄から課題を見だし，その本質や特質，望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに，社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断しようとしているか。 | 現代の政治，経済，国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を主体的に選択し活用するとともに，追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現することができるか。 | 現代の政治，経済，国際関係に関する基本的な事柄や，本質，特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し，その知識を身に付けているか。 |
| <p>【評価方法】</p> 授業態度・定期考査・小テスト・課題提出・ノート提出等で総合的に評価します。授業態度は特にノート提出・発問評価で判断します。                                 |  |   |   |

## 5 履修上の注意

現代の政治・経済に対する関心・理解を深めて下さい。政治分野においては日本国憲法を中心に学習します。経済分野においては、経済のしくみの基礎を学習します。現代社会の動きに対する関心を深められるように新聞等の活用もしていきます。



教科：数学 科目：数学 I

|                                      |                            |              |               |
|--------------------------------------|----------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1 学年                         | 履修単位 (時間)<br>3 単位 (105 時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：改訂版 新編 数学 I (数研出版)             |                            |              |               |
| 副教材等：改訂版 3 T R I A L 数学 I + A (数研出版) |                            |              |               |

## 1 学習目標

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度  | 数学的な見方や考え方   | 数学的な技能                               | 知識・理解                                    |
|---|--|--------------------------------------|--|
| 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断できる。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 |

## 3 学習計画

| 学期         | 単元            | 時数     | 学習内容              | 評価の観点                       |           |   |   |   |   |
|------------|---------------|--------|-------------------|-----------------------------|-----------|---|---|---|---|
|            |               |        |                   | 関                           | 見         | 技 | 知 |   |   |
| 1 学期<br>中間 | 1 章<br>数と式    | 15     | 式の計算              | ①整式                         | ◆         |   | ◆ | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ②整式の加法・減法・乗法                |           |   |   |   |   |
| 1 学期<br>期末 |               | 3      | 実数                | ③因数分解                       |           | ◆ |   | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ①実数の定義                      |           |   |   |   |   |
|            | 8             | 1 次不等式 | ②根号を含む式の計算        |                             |           |   |   |   |   |
|            |               |        | ①不等式の性質           |                             | ◆         | ◆ | ◆ |   |   |
| 2 学期<br>中間 | 3 章<br>2 次関数  | 24     | 関数とグラフ            | ② 1 次不等式                    |           |   |   |   |   |
|            |               |        |                   | ③ 1 次不等式の応用                 |           |   |   |   |   |
|            | 2 章<br>集合と論証  | 10     | 集合                | ④ 2 次関数の最大・最小               | ◆         |   | ◆ | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ①集合                         |           |   |   |   |   |
|            |               |        | 論証                | ②補集合とド・モルガンの法則              | ◆         | ◆ | ◆ | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ①命題と条件                      | ◆         | ◆ |   | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ②論証                         |           |   |   |   |   |
| 2 学期<br>期末 |               | 18     | 2 次関数のグラフと 2 次不等式 | ①不等式を解く                     |           |   | ◆ | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ②応用問題                       |           |   |   |   |   |
| 3 学期       | 4 章           | 20     | 課題学習              | 三平方の定理を用いて、三角形の辺や角の大きさを求める。 | ◆         | ◆ | ◆ | ◆ |   |
|            |               |        |                   | 鋭角の三角比                      | ①三角比の定義   | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ |
|            |               |        |                   |                             | ②三角比の相互関係 |   |   |   |   |
|            |               |        |                   | 三角比の拡張                      | ①鈍角の三角比   |   | ◆ | ◆ | ◆ |
|            |               |        |                   | ②三角比の性質                     |           |   |   |   |   |
|            | 5 章<br>データの分析 | 7      | データの整理            | ①正弦定理・余弦定理・面積               |           | ◆ | ◆ | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ①データの整理・代表値・箱ひげ図            |           | ◆ | ◆ | ◆ |   |
|            |               |        |                   | ②相関関係・相関係数                  |           |   |   |   |   |

計 105 時間 (50 分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 見：数学的な見方や考え方  
技：数学的な技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現   | 技能   | 知識・理解   |
|---|--|--|---|
| 数学的活動を通して、数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。 | 数学的活動を通して、数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。 | 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 | 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。 |
| 定期考査の得点に、小テストや提出物、授業への取り組み状況を加味して評価する。  |  |  |   |

## 5 履修上の注意

高校数学のスタートとして、数学の基礎を学びます。高校の数学は中学の数学と比べ進度も早く、内容も難しく感じると思います。必ず復習をしてわからないところをわからないままにしないようにしましょう。また、授業では理解できていても、問題が解けないことがあります。「わかる」と「できる」は違います。「わかる」を「できる」にするために、きちんと復習する習慣をつけましょう。

教科：理科      科目：物理基礎

|  |                           |              |               |
|--|---------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1 学年   | 履修単位 (時間)<br>2 単位 (70 時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：高等学校改訂新物理基礎 (第一学習社)                            |                           |              |               |
| 副教材等：改訂版フォトサイエンス物理図録 (数研出版)<br>改訂ネオパルノート物理基礎 (第一学習社) |                           |              |               |

### 1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物体と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 観察・実験の技能  | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。 | 物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 | 物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

### 3 学習計画

| 学期         | 単元           | 時数 | 学習内容   | 評価の観点 |   |   |   |
|------------|--------------|----|--|-------|---|---|---|
|            |              |    |  | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 1 学期<br>中間 | 第 I 章 力と運動   | 10 | 第 1 節 物体の運動<br>①速度 ②加速度 ③落体の運動   |       | ◆ |   | ◆ |
| 1 学期<br>期末 |              | 14 | 第 2 節 力と運動の法則<br>①力とのはたらき ②力のつりあい<br>③運動の法則 ④摩擦を受ける運動<br>⑤液体や気体から受ける力  |       | ◆ | ◆ | ◆ |
| 2 学期<br>中間 | 第 II 章 エネルギー | 16 | 第 1 節 仕事と力学的エネルギー<br>①仕事 ②運動エネルギー<br>③位置エネルギー<br>④力学的エネルギーの保存<br>第 2 節 熱とエネルギー<br>①熱と熱量 ②熱と物質の状態 ③熱と仕事<br>④不可逆変化と熱機関   |       | ◆ |   | ◆ |
| 2 学期<br>期末 | 第 III 章 波動   | 12 | 第 1 節 波の性質<br>①波と媒質の運動 ②重ね合わせの原理<br>第 2 節 音波<br>①音の性質 ②発音体の振動と共鳴・共振  | ◆     | ◆ | ◆ | ◆ |
| 3 学期       | 第 IV 章 電気    | 18 | 第 1 節 電荷と電流<br>①電気の性質 ②電流と電気抵抗<br>③電気とエネルギー<br>第 2 節 電流と電磁<br>①交流 ②電磁波<br>第 3 節 エネルギーとその利用<br>①太陽エネルギーの利用<br>②原子力エネルギー |       | ◆ |   | ◆ |

計70時間 (50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度      思：思考・判断・表現      技：観察・実験の技能  
知：知識・理解

## 4 評価の規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 観察・実験の技能  | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。 | 物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 | 物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |
| ①定期テスト、②提出物および小テスト、③授業態度、④出席状況をもとに評価する。                                       |   |   |   |

## 5 履修上の注意

物理学の基礎を学びます。工学系の大学や専門学校への進学を希望する生徒は特に学習に力を入れて下さい。物理の学習を通じて身につけた思考方法は、学んだことを直接利用することはなくとも、必ず社会で役立ちますので、一生懸命学習に取り組んで下さい。

教科：理科      科目：化学基礎

|                           |                        |              |               |
|---------------------------|------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>2学年               | 履修単位(時間)<br>3単位(105時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：改訂 新編化学基礎(東京書籍)     |                        |              |               |
| 副教材等：ニューサポート新編 化学基礎(東京書籍) |                        |              |               |

### 1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 観察・実験の技能   | 知識・理解                                    |
|--|---|--|--|
| 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。 | 物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 | 物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

### 3 学習計画

| 学期        | 単元       | 時数 | 学習内容  | 評価の観点 |   |   |   |
|-----------|----------|----|---|-------|---|---|---|
|           |          |    |   | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 1学期<br>中間 | 化学と人間生活  | 5  | 文明と金属(銅、鉄、アルミニウム)<br>セラミックス、繊維、食料の確保・保存<br>洗剤、環境リスク                     | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           | 物質の探究    | 6  | 物質の性質と分離(混合物と純物質、分離精製)<br>物質の成分(元素、単体と化合物)<br>物質の三態(粒子の熱運動、絶対温度)        |       | ◆ | ◆ |   |
|           | 物質の構成粒子  | 4  | 原子の構造(原子核と、電子、同位体)<br>電子配置(電子殻と電子配置、価電子)                                |       | ◆ |   | ◆ |
| 1学期<br>期末 | 物質の構成粒子  | 6  | 電子配置と周期表(周期律と周期表)<br>元素の分類(同族元素、典型元素と遷移元素)                              | ◆     |   | ◆ | ◆ |
|           | 物質と化学結合  | 15 | イオン(陽・陰イオン、イオン形成)とイオン結合、金属と自由電子と金属結合、分子と共有結合、電子式・構造式<br>化学結合と物質の性質      | ◆     |   | ◆ | ◆ |
| 2学期<br>中間 | 物質量と化学変化 | 10 | 原子量・分子量(相対質量、アボガドロ数)<br>と物質量(モル数・粒子数・質量・体積との換算)                         | ◆     | ◆ | ◆ | ◆ |
|           |          | 14 | 化学反応式(書き方、イオン反応式)<br>化学変化の量的関係(係数と量的関係)<br>化学に関する法則(質量保存、定比例、気体反応、倍数比例) |       | ◆ | ◆ |   |
| 2学期<br>期末 | 酸と塩基     | 4  | 酸と塩基の性質(定義)、分類(価数、強弱)   | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           |          | 3  | 水素イオン濃度とpH  | ◆     | ◆ | ◆ | ◆ |
|           |          | 5  | 中和反応と塩の生成(反応式、塩の分類と性質)  | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           |          | 6  | 中和反応の量的関係と中和滴定  |       | ◆ | ◆ |   |
| 3学期<br>期末 | 酸化と還元    | 4  | 酸化還元と酸素・水素・電子   | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           |          | 6  | 酸化還元と酸化数、酸化剤・還元剤  |       | ◆ | ◆ | ◆ |
|           |          | 4  | イオン化傾向と反応性  | ◆     | ◆ |   | ◆ |
|           |          | 13 | 電池、電気分解   | ◆     |   | ◆ | ◆ |

計105時間(50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度      思：思考・判断・表現      技：観察・実験の技能  
知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 観察・実験の技能   | 知識・理解                                    |
|--|---|--|--|
| 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。 | 物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 | 物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |
| <p>【評価方法】</p> <p>①定期テスト②提出物 ③授業態度 ④出席状況をもとに判断する。</p>                   |   |  |  |

## 5 履修上の注意

身の回りの物質、現象について考え、興味・関心を持つように心がけて、学習に取り組んでください。

教科：理科                      科目：生物基礎

|                               |                           |              |               |
|-------------------------------|---------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1 学年                  | 履修単位 (時間)<br>2 単位 (70 時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：高等学校 改訂 新生物基礎 (第一学習社出版) |                           |              |               |
| 副教材等：改訂ネオパルノート 生物基礎 (第一学習社出版) |                           |              |               |

### 1 学習目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 観察・実験の技能   | 知識・理解                                    |
|--|--|--|--|
| 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。 | 生物や生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 | 生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 | 生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

### 3 学習計画

| 学期         | 単元   | 時数   | 学習内容                                 | 評価の観点 |  |   |   |  |   |
|------------|--|------|--------------------------------------|-------|--|---|---|--|---|
|            |  |      |                                      | 関     | 思                                      | 技 | 知 |  |   |
| 1 学期<br>中間 | 生物の特徴<br>・生物にみられる多様性と共通性<br>・細胞とエネルギー                    | 5    | 生物の多様性、共通性、細胞などの共通性について理解する。         | ◆     | ◆                                      |   |   |  |   |
|            |  | 5    | 代謝とエネルギー、酵素の働きについて理解する。              | ◆     | ◆                                      |   | ◆ |  |   |
| 1 学期<br>期末 | ・光合成と呼吸<br>遺伝子とそのはたらき<br>・遺伝子とDNA<br>・DNAの構造と遺伝情報        | 6    | 光合成と呼吸を通して、代謝とエネルギーの関わりを理解する。        | ◆     | ◆                                      |   | ◆ |  |   |
|            |  | 2    | 遺伝と遺伝子、遺伝子とDNAについて理解する。              | ◆     | ◆                                      |   | ◆ |  |   |
|            |  | 6    | DNAの構造、遺伝情報とDNA、DNAと染色体の関係を理解する。     |       | ◆                                      | ◆ | ◆ |  |   |
| 2 学期       | ・遺伝情報の発現<br>・タンパク質の合成<br>・遺伝子の働き<br>体内環境と恒常性<br>・生物の体内環境 | 2    | DNAの転写、翻訳の過程を理解する。                   |       | ◆                                      | ◆ | ◆ |  |   |
|            |  | 5    | タンパク質の合成が遺伝情報の発現であることを理解する。          | ◆     | ◆                                      |   | ◆ |  |   |
|            |  | 5    | 遺伝情報が正確に複製され、受け継がれることを理解する。          | ◆     | ◆                                      | ◆ | ◆ |  |   |
| 2 学期<br>期末 | ・体内環境を維持するしくみ<br>・生体防御                                   | 4    | 腎臓・肝臓の働きから体内環境の維持を学習し、理解する。          | ◆     | ◆                                      |   | ◆ |  |   |
|            |  | 4    | 自律神経系・内分泌系の働きから体内環境の維持を学習し、理解する。     | ◆     | ◆                                      | ◆ | ◆ |  |   |
|            |  | 4    | 生体防御における免疫について学習し、私たち自身のからだの健康を理解する。 | ◆     | ◆                                      |   |   |  |   |
|            |  | 3 学期 | 植生の多様性と分布<br>生態系とその保全                | 9     | 植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて学習する。         | ◆ |   |  | ◆ |
|            |  |      |                                      | 9     | 生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。 | ◆ | ◆ |  |   |

計70時間 (50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度      思：思考・判断・表現      技：観察・実験の技能  
知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現   | 観察・実験の技能   | 知識・理解   |
|---|--|--|---|
| 生物や生物現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。 | 生物や生物現象の中に問題を見だし、観察、実験など、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した自らの考えを的確に表現する。 | 生物や生物現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付ける。 | 観察、実験などを通して生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |
| <b>【評価方法】</b><br>①定期テスト②提出物 ③授業態度 ④出席状況をもとに判断する。  |  |  |   |

## 5 履修上の注意

生物、生命について考え、興味・関心を持つように心がけて、意欲的に学習に取り組んでください。



教科：保健体育 科目：体育（1年）

|                        |                        |              |               |
|------------------------|------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1学年            | 履修単位（時間）<br>3単位（105時間） | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：現代高等保健体育改訂版（大修館） |                        |              |               |
| 副教材等：なし                |                        |              |               |

### 1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断  | 運動の技能   | 知識・理解  |
|---|--|---|--|
| 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。 | 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 | 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするため各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 | 選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 |

### 3 学習計画

| 学期  | 単元   | 時数 | 学習内容  | 評価の観点            |             |             |             |
|-----|--|----|---|------------------|-------------|-------------|-------------|
|     |  |    |   | 関                | 思           | 技           | 知           |
| 1学期 | ●集団行動・学校体操<br>・体づくり運動<br>●体力テスト<br>●バレーボール<br>●サッカー<br>●体育理論 | 36 | 集団行動・学校体操を理解し、覚える<br>体力の向上<br>基本的技能の習得<br>種目の特性を学ぶ<br>ルールを理解し、公正な判断を行う<br>運動・スポーツの文化的特徴 | ◆<br>◆<br>◆<br>◆ | ◆<br>◆<br>◆ | ◆<br>◆<br>◆ | ◆<br>◆<br>◆ |
| 2学期 | ●持久走<br>●バドミントン<br>●柔道<br>●ニュースポーツ                           | 42 | 体力の向上<br>基本的技能の習得<br>種目の特性を学ぶ<br>ルールを理解し、公正な判断を行う                                       | ◆<br>◆<br>◆      | ◆<br>◆      | ◆<br>◆      | ◆<br>◆      |
| 3学期 | ●バスケットボール<br>●アルペンスキー  | 27 | 基本的技能の習得<br>基本的技能の習得  | ◆<br>◆           | ◆<br>◆      | ◆<br>◆      | ◆<br>◆      |

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：運動の技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 技能  | 知識・理解   |
|--|---|---|---|
| <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。</p> | <p>生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。</p> | <p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。</p> | <p>選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。</p> |
| <p>【評価方法】<br/>各種目ごとに評価をし、観点別の評価を行う。各学期の平均を学年の評価とする。</p>                          |   |   |   |

## 5 履修上の注意

指定の体操着を正しく着用すること。  
安全に活動するために、教員の指示をしっかりと聞き、素早く行動すること。

教科：保健体育 科目：体育（2年）

|                        |                          |              |               |
|------------------------|--------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>2 学年           | 履修単位（時間）<br>3 単位（105 時間） | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：現代高等保健体育改訂版（大修館） |                          |              |               |
| 副教材等：なし                |                          |              |               |

## 1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断  | 運動の技能   | 知識・理解  |
|---|--|---|--|
| 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。 | 生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。 | 運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするため各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 | 選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 |

## 3 学習計画

| 学期   | 単 元   | 時数 | 学 習 内 容  | 評価の観点                      |        |                       |                  |
|------|---|----|--|----------------------------|--------|-----------------------|------------------|
|      |   |    |  | 関                          | 思      | 技                     | 知                |
| 1 学期 | ●集団行動・体づくり運動<br>●陸上競技<br>●体力テスト<br>●サッカー<br>●バスケットボール<br>●バレーボール<br>●体育理論 | 36 | 集団行動を理解する<br>体力の向上<br>基本的技能の習得<br>種目の特性を学ぶ<br>ルールを理解し、公正な判断を行う<br>身だしなみ<br>運動・スポーツの学び方 | ◆<br>◆<br>◆<br>◆<br>◆<br>◆ |        | ◆<br>◆<br>◆<br>◆<br>◆ | ◆<br>◆<br>◆<br>◆ |
| 2 学期 | ●持久走<br>●バドミントン<br>●ダンス<br>●ニュースポーツ                                       | 42 | 体力の向上<br>基本的技能の習得<br>種目の特性を学ぶ<br>ルールを理解し、公正な判断を行う                                      | ◆<br>◆<br>◆                |        | ◆<br>◆<br>◆           | ◆<br>◆<br>◆      |
| 3 学期 | ●バスケットボール<br>●アルペンスキー   | 27 | 基本的技能の習得<br>基本的技能の習得   | ◆<br>◆                     | ◆<br>◆ |                       | ◆<br>◆           |

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：運動の技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 技能  | 知識・理解   |
|--|---|---|---|
| <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。</p> | <p>生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。</p> | <p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。</p> | <p>選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。</p> |
| <p><b>【評価方法】</b><br/>各種目ごとに評価をし、観点別の評価を行う。各学期の平均を学年の評価とする。</p>                   |   |   |   |

## 5 履修上の注意

指定の体操着を正しく着用すること。  
安全に活動するために、教員の指示をしっかりと聞き、素早く行動すること。

教科：保健体育 科目：体育（3年）

|                        |                        |              |               |
|------------------------|------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>3学年            | 履修単位（時間）<br>3単位（105時間） | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：現代高等保健体育改訂版（大修館） |                        |              |               |
| 副教材等：なし                |                        |              |               |

### 1 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断   | 運動の技能  | 知識・理解  |
|--|---|--|--|
| 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。 | 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 | 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。 | 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 |

### 3 学習計画

| 学期         | 単元   | 時数 | 学習内容  | 評価の観点            |   |             |             |
|------------|--|----|---|------------------|---|-------------|-------------|
|            |  |    |   | 関                | 思 | 技           | 知           |
| 1 学期<br>期末 | ●集団行動・体づくり運動<br>●体力テスト<br>●サッカー<br>●バスケットボール<br>●バレーボール<br>●体育理論 | 36 | 集団行動を理解する<br>体力の向上<br>基本的技能の習得<br>種目の特性を学ぶ<br>ルールを理解し、公正な判断を行う<br>豊かなスポーツライフの設計 | ◆<br>◆<br>◆<br>◆ | ◆ | ◆<br>◆<br>◆ | ◆<br>◆<br>◆ |
| 2 学期<br>期末 | ●持久走<br>●バレーボール<br>●バドミントン<br>●ニュースポーツ                           | 42 | 体力の向上<br>基本的技能の習得<br>種目の特性を学ぶ<br>ルールを理解し、公正な判断を行う                               | ◆<br>◆<br>◆      | ◆ | ◆<br>◆      | ◆<br>◆      |
| 3 学期       | ●バスケットボール  | 27 | 種目の特性を学ぶ  | ◆                |   |             | ◆           |

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 技：運動の技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現   | 技能  | 知識・理解   |
|---|--|---|---|
| <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動をしようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。</p> | <p>自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。</p> | <p>自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。</p> | <p>生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。</p> |
| <p>【評価方法】<br/>各種目ごとに評価をし、観点別の評価を行う。各学期の平均を学年の評価とする。</p>                                       |  |   |   |

## 5 履修上の注意

指定の体操着を正しく着用すること。  
安全に活動するために、教員の指示をしっかりと聞き、素早く行動すること。

教科：保健体育 科目：保健（1年）

|                          |                       |              |               |
|--------------------------|-----------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1学年              | 履修単位（時間）<br>1単位（35時間） | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：現代高等保健体育改訂版（大修館）   |                       |              |               |
| 副教材等：現代高等保健体育ノート改訂版（大修館） |                       |              |               |

## 1 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断  | 知識・理解  |
|--|--|--|
| 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 |

## 3 学習計画

| 学期              | 単元             | 時数 | 学習内容                 | 評価の観点          |   |               |
|-----------------|----------------|----|----------------------|----------------|---|---------------|
|                 |                |    |                      | 関              | 思 | 知             |
| 1学期             | 第1章<br>現代社会と健康 | 12 | 1 私たちの健康のすがた         | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 2 健康のとらえ方            | ◆              | ◆ | ◆             |
|                 |                |    | 3 健康と意志決定・行動選択       | ◆              | ◆ | ◆             |
|                 |                |    | 4 健康に関する環境づくり        | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 5 生活習慣病とその予防         | ◆              | ◆ | ◆             |
|                 |                |    | 6 食事と健康              | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 7 運動と健康              | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 8 休養・睡眠と健康           | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 9 喫煙と健康              | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 10 飲酒と健康             | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 11 薬物乱用と健康           | ◆              | ◆ | ◆             |
| 2学期             | 第1章<br>現代社会と健康 | 14 | 12 現代の感染症            | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 13 感染症の予防            | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 14 性感染症・エイズとその予防     | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 15 欲求と適応機制           | ◆              | ◆ | ◆             |
|                 |                |    | 16 心身の相関とストレス        | ◆              | ◆ | ◆             |
|                 |                |    | 17 ストレスへの対処          | ◆              | ◆ | ◆             |
|                 |                |    | 18 心と健康と自己実現         | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 19 交通事故の現状と要因        | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 20 交通社会における運転者の資質と責任 | ◆              |   | ◆             |
|                 |                |    | 3学期                  | 第1章<br>現代社会と健康 | 9 | 21 安全な交通社会づくり |
| 22 応急手当の意義とその基本 | ◆              |    |                      |                |   | ◆             |
| 23 心肺蘇生法        | ◆              | ◆  |                      |                |   | ◆             |
| 24 日常的な応急手当     | ◆              | ◆  |                      |                |   | ◆             |

計35時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 知識・理解   |
|--|--|---|
| 現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について関心を持ち，意欲的に学習に取り組もうとする。       | 現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決を目指して総合的に考え，判断し，それらを表している。 | 現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している |
| <b>【評価方法】</b><br>「定期考査」、「課題・レポート」を中心に授業態度を加味し、総合的に判断します。 |  |   |

## 5 履修上の注意

正しく授業を受講し、課題は期限内に提出すること。



教科：保健体育 科目：保健（2年）

|                          |                       |              |               |
|--------------------------|-----------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>2学年              | 履修単位（時間）<br>1単位（35時間） | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：現代高等保健体育改訂版（大修館）   |                       |              |               |
| 副教材等：現代高等保健体育ノート改訂版（大修館） |                       |              |               |

## 1 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断  | 知識・理解  |
|--|--|--|
| 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。 | 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 |

## 3 学習計画

| 学期  | 単元              | 時数 | 学習内容             | 評価の観点 |   |   |
|-----|-----------------|----|------------------|-------|---|---|
|     |                 |    |                  | 関     | 思 | 知 |
| 1学期 | 第2章<br>生涯を通じる健康 | 12 | 1 思春期と健康         | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 2 性意識と性行動の選択     | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 3 結婚生活と健康        | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 4 妊娠・出産と健康       | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 5 家族計画と人工妊娠中絶    | ◆     | ◆ | ◆ |
| 2学期 | 第2章<br>生涯を通じる健康 | 14 | 6 加齢と健康          | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 7 高齢者のための社会的取り組み | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 8 保健制度とその活用      | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 9 医療制度とその活用      | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 10 医薬品と健康        | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 11 さまざまな保健活動や対策  | ◆     | ◆ | ◆ |
| 3学期 | 第3章<br>社会生活と健康  | 9  | 1 大気汚染と健康        | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 2 水質汚濁・土壌汚染と健康   | ◆     |   | ◆ |
|     |                 |    | 3 健康被害の防止と環境対策   | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 4 環境衛生活動のしくみと働き  | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 5 食品衛生活動のしくみと働き  | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 6 食品と環境の保健と私たち   | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 7 働くことと健康        | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 8 労働災害と健康        | ◆     | ◆ | ◆ |
|     |                 |    | 9 健康的な職業生活       | ◆     | ◆ | ◆ |

計35時間（50分授業）

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現   | 知識・理解  |
|--|--|--|
| 現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について関心を持ち，意欲的に学習に取り組もうとする。               | 現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決を目指して総合的に考え，判断し，それらを表している。 | 現代社会と健康，生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 |
| <p><b>【評価方法】</b><br/>「定期考査」、「課題・レポート」を中心に授業態度を加味し、総合的に判断します。</p> |  |  |

## 5 履修上の注意

正しく授業を受講し、課題は期限内に提出すること。

教科：芸術 科目：美術 I

|                         |                           |                      |               |
|-------------------------|---------------------------|----------------------|---------------|
| 履修学年<br>1 学年            | 履修単位 (時間)<br>2 単位 (70 時間) | 履修形態<br>選択必修科目 (A 群) | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書： 高校生美術 I (日本文教出版) |                           |                      |               |
| 副教材等： なし                |                           |                      |               |

### 1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

### 2 評価の観点

| 美術への関心・意欲・態度  | 発想や構想の能力                            | 創造的な技能                                    | 鑑賞の能力                               |
|---|-------------------------------------|---|-------------------------------------|
| 美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 | 感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。 | 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。 | 美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 |

### 3 学習計画

| 学期         | 単元                                    | 時数 | 学習内容  | 評価の観点 |   |   |   |
|------------|---------------------------------------|----|---|-------|---|---|---|
|            |                                       |    |   | 関     | 発 | 技 | 鑑 |
| 1 学期<br>中間 | オリエンテーション<br>鉛筆デッサン<br>風景画 (アクリルガッシュ) | 4  | 授業の流れ・評価の方法<br>デッサンの技法を学ぶ                                       | ◆     |   | ◆ |   |
|            |                                       | 6  | 作品鑑賞<br>アクリルガッシュの技法を身につける<br>風景画制作                              |       |   | ◆ | ◆ |
| 1 学期<br>期末 | 文化祭 展示物準備                             | 14 | 絵画の基本技法<br>絵画の鑑賞<br>画材に合ったテーマの決め方、表現方法<br>色彩構成、画面構成の方法<br>展示物制作 |       | ◆ | ◆ | ◆ |
| 2 学期<br>中間 | 立体 (粘土)<br>絵本づくり                      | 8  | クレイアートの基本技法<br>どのように粘土で表現するか                                    | ◆     |   |   | ◆ |
|            |                                       | 8  | 様々な絵本についての知識<br>絵本づくりの基本技能<br>絵本作品制作                            |       | ◆ | ◆ |   |
| 2 学期<br>期末 | 鑑賞                                    | 6  | 作品の発表・評価  |       | ◆ |   | ◆ |
|            |                                       | 6  | 鑑賞の視点<br>制作者の意図   | ◆     |   |   | ◆ |
| 3 学期       | 絵画 (トリックアート)                          | 18 | トリックアートの持つ意味への理解<br>立体をデザインする<br>表現形式、色彩、材料の生かし方などの技能<br>作品制作   |       | ◆ | ◆ | ◆ |

計70時間 (50分授業)

※評価の観点 関：美術への関心・意欲・態度 発：発想や構想の能力  
技：創造的な技能 鑑：鑑賞の能力

## 4 評価規準と評価方法

| 美術への<br>関心・意欲・態度   | 発送や構想の能力                                 | 創造的な技能                                | 鑑賞の能力  |
|--|--|---------------------------------------|--|
| 美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、感性を高めて意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。   | 感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。 | 創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。 | 作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、日本の美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを味わう。 |
| <p><b>【評価方法】</b><br/>           授業内での制作物または鑑賞を行った際のワークシートやレポート<br/>           2 評価の観点を踏まえ、作品提出、完成の状況・学習活動への参加状況・授業観察・資料の活用、応用状況・制作手順や用具の使い方・鑑賞時（関心、集中度など）の状況・レポートの内容などから総合的に評価を行う。</p> |  |                                       |  |

## 5 履修上の注意

授業を通して想像力や創造力を養い、美術に親しみ、ゆとりある豊かな暮らしへと活かして欲しい。また、自分の創りたい物を見つけ、自ら制作設計を立て、制作物を最後まで完成させるという活動を他のことにも活かして行ってほしい。

教科：芸術 科目：書道Ⅰ

|                 |                           |                      |               |
|-----------------|---------------------------|----------------------|---------------|
| 履修学年<br>1 学年    | 履修単位 (時間)<br>2 単位 (70 時間) | 履修形態<br>選択必修科目 (A 群) | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：書Ⅰ (教育図書) |                           |                      |               |
| 副教材等：なし         |                           |                      |               |

### 1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

### 2 評価の観点

| 書への関心・意欲・態度   | 書表現の構想と工夫  | 創造的な書表現の技能                                    | 鑑賞の能力  |
|---|--|---|--|
| 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 | 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 | 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。 | 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 |

### 3 学習計画

| 学期         | 単元         | 時数 | 学習内容  | 評価の観点 |   |   |   |
|------------|------------|----|---|-------|---|---|---|
|            |            |    |   | 関     | 構 | 技 | 鑑 |
| 1 学期<br>中間 | 漢字の書 (楷書)  | 10 | 半紙に楷書で臨書する                                    |       |   | ◆ |   |
|            | 漢字の書 (行書)  |    | 競書大会への出品 (日本武道館書写大会)<br>点画が連続して書く日常的な書体の修得    |       |   | ◆ |   |
| 1 学期<br>期末 | 漢字仮名交じりの書  | 14 | 画仙紙 (半切り) に詩歌などを素材とした書。<br>作品の相互鑑賞、校内文化祭      | ◆     |   |   | ◆ |
| 2 学期<br>中間 | 仮名の書<br>連綿 | 16 | 縦、横、転折、結び等基本的な筆使いの修得                          |       |   | ◆ |   |
|            | 実用の書       |    | 簡単な文章により連綿線を表現する                              |       |   | ◆ |   |
| 2 学期<br>期末 | 実用の書       | 12 | 年賀状を小筆で書く<br>贈答用語の表書きをする                      |       | ◆ | ◆ |   |
| 3 学期       | 変体仮名       | 18 | 古典の鑑賞に役立てるよう読解力を身につける<br>連綿や散らし書きによる美の表現力を高める |       | ◆ | ◆ | ◆ |

計70時間 (50分授業)

※評価の観点 関：書への関心・意欲・態度  
 構：書表現の構想と工夫  
 技：創造的な書表現の技能  
 鑑：鑑賞の能力

## 4 評価規準と評価方法

| 書への<br>関心・意欲・態度   | 書表現の<br>構想と工夫                                  | 創造的な<br>書表現の技能                     | 鑑賞の能力   |
|---|--|------------------------------------|---|
| 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。 | 書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 | 創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身につけている。 | 文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。 |
| <b>【評価方法】</b><br>書への関心・意欲・態度、及び作品の完成度を総合的に判断し評価する。      |  |                                    |   |

## 5 履修上の注意

書写している文字の意味と解説

教科：外国語

科目：コミュニケーション英語Ⅰ

|   |                            |              |               |
|---|----------------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1 学年  | 履修単位 (時間)<br>3 単位 (105 時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：VISTA English Communication NewEditionⅠ (三省堂) |                            |              |               |
| 副教材等：『新ユメタン0』アルク、『Zoom 総合英語』第一学習社                   |                            |              |               |

## 1 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

## 2 評価規準

|   |                               |                                    |   |
|---|-------------------------------|------------------------------------|---|
| コミュニケーションへの関心・意欲・態度                           | 外国語表現の能力                      | 外国語理解の能力                           | 言語や文化についての知識・理解                                 |
| コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 | 英語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。 | 英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。 | 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 |

## 3 学習計画

| 学期         | 単元                                     | 時数 | 学習内容                        | 評価の観点 |   |   |   |
|------------|--|----|-----------------------------|-------|---|---|---|
|            |  |    |                             | 関     | 表 | 理 | 知 |
| 1 学期<br>中間 | Lesson 1<br>Kerama Blue                | 7  | 慶良間ブルーって、どんな海？              | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：be 動詞，一般動詞             |       | ◆ | ◆ |   |
|            | Lesson 2<br>Cool Japan                 | 7  | 日本でクールなものって、何？              | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：疑問文，現在進行形              |       | ◆ | ◆ |   |
| 1 学期<br>期末 | Lesson 3<br>Mexican Dishes             | 8  | 世界無形文化遺産のひとつ、メキシコ料理とは？      | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：過去形，助動詞                |       | ◆ | ◆ |   |
|            | Lesson 4<br>The Olympics               | 8  | オリンピックの歴史と目的、そしてこんな協議が…     | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：SVO(O=that~)・SVOO・SVOC |       | ◆ | ◆ |   |
|            | Lesson 5<br>Baobabs in Madagascar      | 8  | 「バオバブ」って、どんな木？              | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：不定詞                    |       | ◆ | ◆ |   |
| 2 学期<br>中間 | Lesson 6<br>ToothBrushing in Edo       | 9  | 歯を大切にす文化を江戸に見る              | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：動名詞                    |       | ◆ | ◆ |   |
|            | Lesson 7<br>Machu Picchu               | 9  | 謎だらけの世界複合遺産マチュ・ピチュを訪ねよう     | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：現在完了形                  |       | ◆ | ◆ |   |
|            | Lesson 8<br>Motala and Landmines       | 9  | モタラー 地雷で足を失ったゾウは、その後…       | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：受け身                    |       | ◆ | ◆ |   |
| 2 学期<br>期末 | Lesson 9<br>Dick Bruna                 | 10 | ミッフィーの生みの親、ディック・ブルーナ        | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：関係代名詞                  |       | ◆ | ◆ |   |
|            | Lesson 10<br>Tswuji, the Great Pianist | 10 | ピアニスト、辻井伸行                  | ◆     |   |   | ◆ |
|            |  |    | 言語材料：関係副詞，形式主語 it           |       | ◆ | ◆ |   |
| 3 学期       | Lesson 11                              | 10 | 自然からの贈り物                    | ◆     |   |   | ◆ |

|                         |    |                    |   |   |
|-------------------------|----|--------------------|---|---|
| Ideas from Nature       |    | 言語材料：分詞構文          | ◆ | ◆ |
| Lesson 12<br>Steve Jobs | 10 | 第二のステップ・ジョブズを目指すには | ◆ | ◆ |
|                         |    | 言語材料：仮定法過去         | ◆ | ◆ |

計105時間（50分授業）

※評価の観点 関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 表：外国語表現の能力  
理：外国語理解の能力 知：言語や文化についての知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| コミュニケーションへの関心・意欲・態度  | 外国語表現の能力                                     | 外国語理解の能力   | 言語や文化についての知識・理解   |
|--|--|--|---|
| コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。                          | 日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。 | 日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。 | 日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。 |
| <b>【評価の方法】</b><br>「定期考査」、「提出物」、「授業に対する意欲・態度」「パフォーマンステスト」等により総合的に評価します。 |  |  |   |

## 5 履修上の注意

語学は一朝一夕では身につけません。理解したことを土台に地道な作業を繰り返すことが、力をつけるためには重要です。暗記したことを文の形でアウトプットすることも大切です。  
コミュニケーション英語 I では、中学校で学んだ学習事項を整理しながら、より実践的なコミュニケーション能力を身に付けることを目標とします。



教科：家庭 科目：家庭基礎

|   |                       |              |               |
|---|-----------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>1学年                             | 履修単位(時間)<br>2単位(70時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来(実教出版)        |                       |              |               |
| 副教材等：基本マスター フード&クッキング レシピ+成分表 四訂版(実教出版) |                       |              |               |

## 1 学習目標

人の一生と家族、家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

## 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 技能   | 知識・理解  |
|--|---|--|--|
| 人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的な技術を身に付けている。 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する基礎的な知識を身に付けている。 |

## 3 学習計画

| 学期        | 単元  | 時数                | 学習内容   | 評価の観点 |   |   |   |
|-----------|---|-------------------|--|-------|---|---|---|
|           |   |                   |  | 関     | 思 | 技 | 知 |
| 1学期<br>中間 | ホームプロジェクトと<br>学校家庭クラブ活動                     | 1                 | 家庭科を学ぶにあたって<br>学校家庭クラブ活動の意義、身のまわりの課題<br>とホームプロジェクトの進め方                         |       |   |   |   |
|           |   | 1編 人とかかわって生<br>きる | 2 自分を見つめる 生きるということ<br>2 男女がともになう生活をめざして  |       | ◆ |   | ◆ |
|           | 1章 自分らしい生き方<br>と家族                          | 2                 | 2 青年期を生きる、青年期の課題、生活設計  | ◆     |   |   |   |
|           |   | 2                 | 2 パートナーと出会う 変わる結婚、暮らし<br>2 家族と法律 生活をささえる仕事と生活時間                                |       | ◆ |   | ◆ |
| 1学期<br>期末 | 2章 子どもとかかわる                                 | 7                 | 7 生命の誕生 みんなで育てる<br>子供の生活 すこやかに育つ環境 権利  |       | ◆ |   | ◆ |
|           |   | 2                 | 2 人の発達と保育(からだ、心)   |       |   |   | ◆ |
|           | 3章 高齢者とかかわる<br>4章 社会とかかわる                   | 2                 | 2 高齢者の現状 福祉システム  | ◆     |   |   |   |
|           |   | 2                 | 2 社会保障制度のしくみ   | ◆     |   |   |   |
| 夏休み       | ホームプロジェクト                                   |                   | 自分の身のまわりの生活課題をみつけ、夏休み<br>に調査・研究を行いレポートとして提出する                                  |       |   | ◆ |   |
| 2学期<br>中間 | 第2編 生活をつくる<br>1章 食生活をつくる                    | 16                | 16 栄養と食品のかかわり<br>食品の栄養素とからだの成分<br>五大栄養素とからだの成分<br>栄養所要量と食品摂取量のめやす<br>食品の選び方と安全 |       |   |   | ◆ |
|           |   |                   |  | ◆     |   |   | ◆ |
|           |   |                   |  |       |   |   | ◆ |
|           |   |                   |  |       | ◆ |   |   |
|           |   |                   |  |       |   |   | ◆ |
| 2学期<br>期末 | 2章 衣生活をつくる                                  | 1                 | 1 食中毒、食品添加物の理解   |       |   |   | ◆ |
|           |   | 9                 | 9 調理実習3回、材料計算、実習カード作成  |       |   | ◆ |   |
|           |   | 2                 | 2 衣服の機能、素材・性能<br>衣服の手入れ、洗剤のはたらき<br>衣生活と環境、資源の理解                                |       |   |   | ◆ |
| 3学期       | 3章 住生活をつくる                                  | 5                 | 5 人と住まいのかかわり<br>健康的で安全な住まい   | ◆     |   |   | ◆ |
|           |   | 10                | 10 消費者の権利と責任、購入のあり方<br>資源、環境を考える   |       | ◆ |   |   |
|           | 3編 消費者として自立する<br>1章 消費行動を考える<br>2章 経済的に自立する | 3                 | 3 家庭経済を認識させる   |       | ◆ |   | ◆ |
|           |   |                   |  |       |   |   | ◆ |

計70時間(50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：技能 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度   | 思考・判断・表現  | 技能  | 知識・理解   |
|--|---|---|---|
| <p>家族・子ども・高齢者・消費・経済などに対して、また、それらに関連する制度や法律等に関心を持ち、さらに生きていくうえの知識・技術を習得して、自分の生活をデザインしようとする意欲がある。</p>                           | <p>学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容をレポート等でまとめることができる。</p> | <p>自立するために必要な調理技術、縫製技術、また家庭介護のための基礎的技術などを身につけることができる。</p> | <p>人が生きていくうえで必要な「生活」にかかわる基本的知識を身につけ、理解している。</p> |
| <p><b>【評価の方法】</b><br/> 「定期考査」「調理実習カード」「課題・レポート」を中心に「平常点」を加味し、上記シラバスに記載した観点により総合的に評価します。<br/> 「平常点」では授業中の積極的な発言や質問を重視します。</p> |   |   |   |

## 5 履修上の注意

常に将来自立したときの自分を当てはめてイメージし、基本的な知識と技術を積極的に修得しようとする姿勢を見せてほしいと思います。

教科：情報 科目：社会と情報

|                   |                       |              |               |
|-------------------|-----------------------|--------------|---------------|
| 履修学年<br>2学年       | 履修単位(時間)<br>2単位(70時間) | 履修形態<br>必修科目 | 履修条件等<br>特になし |
| 使用教科書：社会と情報(東京書籍) |                       |              |               |
| 副教材等：なし           |                       |              |               |

### 1 学習目標

情報の特徴と情報化が及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

### 2 評価の観点

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 技能  | 知識・理解   |
|---|---|---|---|
| 情報の特徴と情報化が社会に果たす役割や及ぼす影響に関心をもち、身の回りの問題を解決するために、情報機器や情報通信ネットワークを活用し、情報社会に積極的に参画しようとしている。 | 情報や情報社会における身の回りの問題を解決するために、情報の特徴と情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響について、思考を深め、適切に判断し表現している。 | 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するための技能を身につけ、効果的にコミュニケーションを行っている。 | 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するための知識を身につけ、情報の特徴と情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響を理解している。 |

### 3 学習計画

| 学期        | 単元               | 時数        | 学習内容                 | 評価の観点 |                   |   |   |
|-----------|------------------|-----------|----------------------|-------|-------------------|---|---|
|           |                  |           |                      | 関     | 技                 | 思 | 知 |
| 1学期<br>中間 | 1章 情報を活用する       | 2         | 1-1 情報とメディア          | ◆     |                   |   | ◆ |
|           |                  | 2         | 1-2 信頼できる情報と信頼できない情報 |       |                   |   | ◆ |
|           |                  | 2         | 1-3 情報の見極め           | ◆     |                   |   | ◆ |
|           |                  | 2         | 2-1 情報のデジタル表現        | ◆     | ◆                 | ◆ |   |
|           |                  | 2         | 2-2 デジタルデータの特徴       | ◆     |                   |   | ◆ |
| 1学期<br>期末 | 1章 情報を活用する       | 2         | 3-1 情報の表現と伝達の仕組み     | ◆     |                   | ◆ | ◆ |
|           |                  | 2         | 3-2 伝達や表現のための手段      |       | ◆                 |   | ◆ |
|           |                  | 2         | 3-3 効果的なプレゼンテーション    |       |                   | ◆ | ◆ |
|           |                  | 8         | プレゼンテーション演習          | ◆     | ◆                 | ◆ |   |
| 2学期<br>中間 | 2章 ネットワークを探索する   | 3         | 1-1 インターネットの仕組み      | ◆     |                   |   | ◆ |
|           |                  | 2         | 1-2 WWWと電子メール        | ◆     |                   |   | ◆ |
|           |                  | 3         | 2 ネットワークとコミュニケーション   |       |                   |   | ◆ |
|           |                  | 5         | 文章入力演習               | ◆     | ◆                 | ◆ |   |
|           |                  | 2学期<br>期末 | 3章 情報社会の課題を見つける      | 2     | 1-1 誰でも表現者・発信者の時代 | ◆ |   |
| 1         | 1-2 情報社会の陰       |           |                      |       |                   |   | ◆ |
| 2         | 1-3 情報セキュリティとモラル |           |                      |       |                   |   | ◆ |
| 2         | 2 法律と個人の責任       |           |                      |       |                   |   | ◆ |
| 8         | 文書作成演習           |           |                      | ◆     | ◆                 | ◆ |   |
| 3学期       | 4章 望ましい情報社会に向かう  | 2         | 1 社会における情報システム       |       |                   |   | ◆ |
|           |                  | 2         | 2 情報システムと人間          |       |                   |   | ◆ |
|           |                  | 2         | 3 情報社会と問題解決          | ◆     |                   | ◆ | ◆ |
|           |                  | 12        | 表計算ソフト演習             | ◆     | ◆                 | ◆ |   |

計70時間(50分授業)

※評価の観点 関：関心・意欲・態度 技：技能・表現 思：思考・判断 知：知識・理解

## 4 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度  | 思考・判断・表現  | 技能   | 知識・理解   |
|---|---|--|---|
| 社会の情報化が生活に果たす役割と及ぼす影響に関心を持っている。<br>情報技術を社会の発展に役立てようとしている。               | 社会の情報化が生活に果たしている影響について考え、その結果を適切に表現している。<br>よりよい情報社会を構築するためには、どのような考え方や配慮が必要であるかを考え、判断し、その結果を適切に表現している。 | 生活における利便性を高めたり、よりよい人間関係を構築するために、情報技術を活用することができる。 | 情報化が人間の生活や社会全体に果たしている役割や及ぼしている影響について理解している。<br>よりよい情報社会を構築するために、人間の果たすべき責任について理解している。 |
| <p>【評価の方法】<br/>「定期考査」「授業レポート」を中心に平常点を加味し、上記シラバスに記載した観点により総合的に評価します。</p> |   |  |   |

## 5 履修上の注意

「情報」という教科は、単にコンピュータについて勉強する教科ではありません。表現やコミュニケーションに情報機器を利用したり、自ら課題を見つけ、解決していく能力を身につけること、情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解するとともに、情報を主体的に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を身につけることを目標とします。